

東舞子

2018/05/31 (6月号)
神戸市立東舞子小学校
平成30年度学校だより

<http://www.kobe-c.ed.jp/hmi-es>

人の役に立つ (自己有用感を高める)

校長 古池 茂

校庭のアジサイが日ごとに大きくなり花も咲き始めました。子供たちは、新しい学年にもすっかり慣れ、学級の友達と笑顔で楽しく学校生活を過ごしています。先日の東舞子オープンデーには多くの保護者の方が来校されました。学校たんけんの様子を発表したり、初めて体験する家庭科の裁縫で玉結びや玉止めの仕方を学習したり、運動会に向けて学年練習をしたりする場面など、担任も知恵を絞り子供たちの活躍する学習を用意しました。お子さんの成長ぶりはいかがでしたでしょうか。



先日、障がいをもつ方を積極的に雇用する会社を紹介するテレビ番組がありました。その経営者である社長は、ある禅寺の住職から以下のことを聞いたことがきっかけで、障がいをもつ方を多数雇用したようです。「人間の究極の幸せは、愛されること、褒められること、人の役に立つこと、人に必要とされることであり、福祉施設で大事に面倒をみてもらうことが幸せではなく、働いて役に立つ会社こそが人間を幸せにする」と。

子供たちの様子を見ていると、困っている1年生に上級生が声をかけたり、代表委員会の子供たちが正門であいさつ運動をしたりするなど、学校の友達や学校のことを考えた言動がよく見られます。友達や学級、学校の役に立ったり、学級で自分が必要とされたりした時、子供たちは幸せを感じます。子供たちが目標に向かって努力したり、すすんで活動したりしたときには、私たち教師もしっかりと褒めていかなければいけないことを改めて気付かされました。

ご家庭でも、お子さんが家族のためにできることをそっと考え、ちょっとしたお手伝い（例えば、玄関のくつ揃え、夕食時の片づけなど）をさせ、家族の役に立つ喜びを味わわせていただきたいです。そして、子供がすすんで手伝いをしているときには、褒め言葉（ありがとう、いつも助かっているよ など）も忘れずにかけてあげてください。学校と家庭の両輪で子供たちの自己有用感を高め、人の役に立とうとする気持ちを育んでいきたいと思ひます。

さて、子供たちは、運動会に向けて各学年の練習に日々励んでいます。大きな学校行事の一つであり、子供たちに運動する喜び、友達とともに力を合わせて取り組む大切さ、あきらめることなく最後までやり遂げる強い気持ちなどを育てています。ご家庭でも学校での練習の様子をお子さんに聞き、励ましの声をかけていただければと思います。6月9日(土)、お子さんの練習の成果、成長した姿を是非、ご覧ください。

